

APU

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プログレス・レポート
[2003年・春号]

特集：APUの学費政策



Spring 2003

Vol. 19

巻頭言

駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使
ブー・ズン



学生の半数を国際学生で構成するという画期的な構想で2000年4月にスタートした立命館アジア太平洋大学が、2003年度完成に向けて順調な足取りで前進していることを、アドバイザー・コミッティアンバサダーメンバーの一員に参加させていただいている立場から、心よりうれしく存じております。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」を建学の理念としておられますが、この理念は、今日の時代においては、世界のどのような立場の人々にとっても、普遍的な価値をもっているものです。私たちベトナム人にとっては、さらに特別な価値をもつものであります。それは、ベトナムでは、第2次大戦後、さらに長い期間、国土が戦乱の場となり、幾多の尊い生命が失われ、自然が破壊された経緯をもつからであります。その点で、私共は、立命館アジア太平洋大学の教学理念の価値をとりわけ強く共有するものであります。

立命館アジア太平洋大学には、すでに私たちの国から91名もの学生が学んでおり、本年中に100名を超えることと思われます。これは、日本に留学しているベトナム人学生の10%にあたります。今、私たちの国は、ドイモイ政策の下での経済発展に精力を注いでおります。ベトナムの経済発展には、もっともっと多くの有為な人材が必要であり、そのためには、高等教育の充実が、重要な意義をもっております。その点で、私たちは、立命館アジア太平洋大学がベトナムの人材養成に大切な役割を担っていると考えています。

ベトナムと立命館は、強い友好関係によって結ばれております。現在、私たちのグエン・ミン・ヒエン教育訓練省大臣は、ハノイ工科大学の時代から、立命館前総長の南正瑛教授、坂本和一立命館アジア太平洋大学学長と長い交友関係があります。また、我が国の前国家副主席グエン・ティ・ビン女史は、立命館アジア太平洋大学のアドバイザー・コミッティ名誉委員に加わっております。

私どもは、これからも立命館大学並びに立命館アジア太平洋大学との友好関係が、より一層深くなってまいりますことを念じますとともに、立命館アジア太平洋大学が、人材育成をとおして、世界の平和と持続可能な発展に積極的に貢献する国際大学として、益々発展することを心より祈念しております。

大阪ガス株式会社 相談役

大西 正文



「社会を変えていく大学へ」

昨秋、かねてからの念願であった立命館アジア太平洋大学（APU）を訪ねる機会に恵まれた。別府湾を臨む高台の広大なキャンパスを様々な国や地域から来た学生たちが生き生きとした表情で往来していた。実に国際色豊かである。

坂本学長をはじめ幹部の方々に開学後の状況や今後の課題等について伺った後、アジアやアフリカからの留学生や日本人学生数名との懇談の場も設けていただいた。彼ら（彼女たち）、とりわけ国際学生は、慣れない日本語ではあるが真剣なまなざしで、毎日の勉学の様子や将来の夢を熱っぽく語ってくれた。私は、大学関係者や地元行政の「高い志」が着実に開花しつつある様子を目の当たりにし、改めて敬意を表するとともに、当地で学んだこの若き学生たちが、まさに明日の国際社会の繁栄を創造していくという確信を強めた。

ところで、その前日、私は数年ぶりに湯布院を訪ねた。人口わずか12000人の小さな街だが、今年年間約400万人の人が訪れる、九州を代表する観光地となっている。観光総合事務所で事務局長を務める米田誠司さんによると、「今後は観光地をバタバタとあわただしくまわる“駆け足観光”ではなく、心豊かな時間をじっくりと味わってもらおう滞在型の観光が大切です。私たちはこれからの時代を見据え、絶えず湯布院ならではの魅力を創り育てて、お越しいただくお客様一人一人の満足度を高めていきたいと考えています」とのこと。湯布院は、単に観光客の欲求に迎合して来訪者数を増やすのではなく、観光地での新しい過ごし方を真剣に考え、さらには日本人の真に豊かなライフスタイルを先導する気概を持って、いわば観光の質を高めることに取り組んできたのではなかろうか。まさに、“小さな街の大きなチャレンジ”と言っても過言ではないと思う。

いうまでもなく、世の中には“大きな大学”はいくつも存在し、APUは、むしろ“小さな大学”かもしれない。しかし、当大学は単に大学の量的規模の拡大を図るのではなく、ユニークなカリキュラム編成や今春の大学院設置など意欲的な取り組みを進め、世界に真に通用する広い視野と高い学問レベルを備えた質の高い人材の育成を目指している。そして、「社会に合わせる大学」にとどまらず、「社会を変えていく大学」としての地歩を築いていくことがAPUの存在意義を増し、世界から尊敬される途であると思う。

立命館アジア太平洋大学が今後とも“小さな大学の大きなチャレンジ”を続け、次世代のわが国や世界の未来を拓く大きな原動力になることを期待している。

ごあいさつ

立命館アジア太平洋大学長
坂本 和 一

新年にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

立命館アジア太平洋大学（APU）は、アドバイザー・コミッティの皆様方をはじめ、国内外の各界の広範な方々の多大なご支援のお陰で順調に前進して参りまして、いよいよ本年は4年目、完成年度を迎えることになりました。この間にAPUは、6回の入学式を執り行い、国内外の各地から優秀な入学者を迎えることができました。現在本学では、世界65カ国・地域から1,261名の国際学生が在籍し、1,545名の国内学生と互いに切磋琢磨しながら勉学に励んでおります。

今、日本の大学には「国際的通用力、国際的信頼性の高い大学」づくりと「学生がよく勉強する大学」づくりが求められております。APUは、日本ではこれまでに例をみない多文化、多国籍の教育・研究環境を十分生かして、日本の大学教育の国際化の最先端を切り拓き、このような課題に応える信頼性の高い大学づくりに貢献できますよう努めてまいります。

APUに学ぶ学生の実態をよりリアルにご理解いただき、ご教示賜りたく、2001年の「企業各位と大学・学生との懇談会」に引き続き、2002年は11月中の3回の水・木曜日に、企業の人事ご担当者の皆様には直々にAPUにお出でいただき、授業にもご参加いただく「ようこそ、APUへ」企画をもたせていただきました。この企画には、合計81社105名の関係の方のご来学をいただきました。これもひとえにアドバイザー・コミッティの皆様のご高配の賜と、深く感謝申し上げます。この中で、学生はもとより、私ども大学関係者も、APUのこれからの発展のために多くのことを学ばせていただきました。





また、2002年10月29日から31日までの3日間、本学キャンパスで、学校法人立命館の2大学、立命館大学と立命館アジア太平洋大学が、国連総会決議にもとづき設置されております国連・平和大学（本部コスタリカ、サンホセ）と協力して、「2002年世界学生サミット」を開催いたしました。これには、世界の25の国・地域からの58の大学、および日本を代表する23の大学より学生代表が集まり、学生自身の手によって、この画期的な催しを成功させることができました。

本年は、APUの学部教育の完成を迎える年でありますと同時に、4月には待望の大学院2研究科、アジア太平洋研究科と経営管理研究科（MBA）を開設いたします。21世紀のグローバル化の時代に活躍できる新しい国際的な高度専門人材を育成して参りますので、一層のご教示を賜りたいと存じます。

APUの活動場面もいよいよ多面化して参りますが、日本ではじめての本格的な国際大学創造のため、私ども大学関係者は、一層の努力を重ねてまいる所存でございます。

これまでのご支援に心より御礼申し上げますとともに、今後ともご教示、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



[特集] APUの学費政策

APUには、学生の約半数が外国籍という学生構成や、日本語と英語の両言語で授業を行うというシステムがありますが、学費政策においても「単位制授業料」というユニークな制度を採用しています。日本では学部・学科でこの制度を導入している大学はありますが、大学全体で採用しているところは現在ほとんどありません。APUの学費政策の全容について、伊藤 昭副学長（総務・財務担当）にお話を伺いました。



伊藤 昭
APU副学長（総務・財務担当）

単位制授業料の実際と効果

APUで採用している単位制授業料とはどのようなものですか。

APUでは、主にアメリカの大学などで採用されている「単位制授業料」を採用していますが、1年間の学費が「固定授業料」と「単位制授業料」の二つに分けられます。

大学において各種施設・設備を利用するなど、大学に在学することによって全学生が受けられる共通のサービスに対する費用などを含むのが「固定授業料」（＝授業料A）で、2002年度の授業料Aは47万7000円です。

一方、「単位制授業料」（＝授業料B）は、登録単位数に応じて額が決定されます。2002年度では1単位が1万8000円であるため、30単位登録すると54万円になります。（※参考：大学を卒業するには124単位が必要とされます。）

よって、AとBとを加算した101万7000円が年間に収める授業料ということになります。なお、APUではセメスター制を導入しているため、授業料の納付は春と秋のセメスターごとにそれぞれ授業料A、授業料Bと、年4回です。

単位制授業料制度

{ 入学金
 { 固定学費（授業料A）＋単位制授業料（授業料B）

◎年間に収める授業料の例（2002年度の場合）

授業料A：477,000円（1セメスターあたり238,500円×2）
 授業料B：540,000円（1単位あたり18,000円。年間に30単位登録した場合、18,000円×30）
 合計：A+B=1,017,000円

◎授業料改定方式

授業料A：

新年度授業料A＝前年度授業料A×（1＋物価上昇率）

*物価上昇率は、直近の過去12ヵ月における総務庁消費者物価全国指数の対前年同月比の平均値であり、マイナスの場合は0%とする（小数点第二位の数を四捨五入）。

*計算の結果、100円未満は四捨五入として、100円単位とする。

授業料B：

1単位あたり毎年定額500円改定

*2003年度は、1単位あたり18,500円となる。

Special Report : Tuition Policy

「単位制授業料」を採用した目的はどこにありますか。

主に三つの目的があります。まず、一つの科目の授業料を意識することで、学生が登録した授業を確実に修得しようという動機づけになります。

APUでは学生が日常的に学習することで、各科目の到達目標を確実に修得させることを重視しています。そのため、すべての授業のシラバスに、授業の目的、目標、毎回の授業の概要、成績評価基準、テキスト・参考書、学生への要望事項などを記載しています。成績評価に関しては、期末試験の成績配分を50%以下にし、中間的な課題を2回以上課すことにしています。最低合格ラインは60%以上であるため、期末試験だけを受けて単位を取得することができないシステムとなっています。

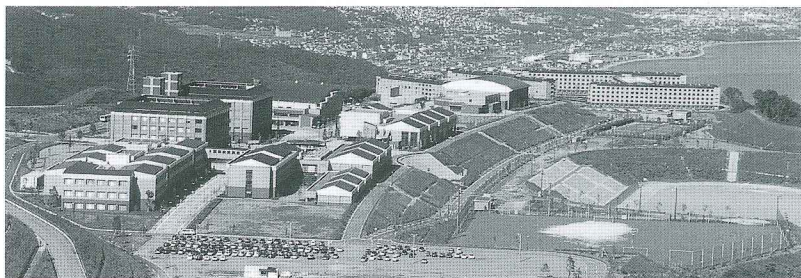
このようなシステムを運用するためには、日常的な課題を課し、採点する必要があること、また学生の参画が可能な授業を実現するために、APUではすべての講義授業を最大でも250名以下で行っています。2001年度秋 semester 開講の講義科目（言語・演習を除く）では、1クラス99名以下の授業が約65%、100～199名の授業が約25%、200名以上の授業が約10%でした。

「単位制授業料」は、こうした比較的小規模なクラスのもとで、日常的な学習を奨励するシステムの一環と位置づけられています。

二つめの目的は、学生が授業料を意識するようになると、教える側にとっても刺激になるということです。

教員はさまざまな工夫で学生の学習と理解を促進させようとします。授業の説明にパワーポイントを使用し、その資料を事前にインターネット上で学生に配布します。リーディング・アサインメントは1科目平均数十ページにおよび、コースパックとして授業





開始前（セメスターの初め）に学生に提供される科目もあります。また、講義科目においても学生によるプレゼンテーションやディスカッションが行われています。

こうした準備や学生へのフィードバックのために、教員は1回の授業につき約3時間を費やしています。また、週1回95分のオフィス・アワーを設定し、学生からの相談にのったり、学習指導を行ったりしています。

学生が真剣であるため、教員もいっそう真剣になり、それがまたAPU学生がよく勉強する引き金ともなっています。

授業内容の充実は、教員の創意工夫と学生の積極的な参加により実現するものです。「単位制授業料」は、これを側面から支援するものとして位置づけられます。

三つめの目的は、学費額の説明を明確にすることです。大学を卒業するには124単位の取得が必要ですが、長期在籍生や早期卒業生など標準的な修業年限と異なる期間での卒業をめざす学生も増えてくると予想されます。そのような学生についても、すべての登録単位を落とさずに修得すれば、単位制授業料部分は在学年数に関わらず同額ということになります。

APUでは2003年3月に初めての早期卒業学生を送り出します。早期卒業プログラムとは、1年生時の修得単位数と成績が基準を満たしていれば、2年めから登録単位制限数が増やされ、3年間で卒業に必要な単位を取得できるという制度です。このプログラムを選択した学生は、4年めの授業料Aと生活費を負担する必要がありません。卒業後の進路が決定していれば、大きなメリットとなるでしょう。

もちろん、在学年数が増えれば大学における各種サービスを受ける年数も長くなるため、その分の固定学費、つまり授業料Aは増えることになります。

このように、さまざまな学び方をする学生が増えても、固定学費と単位制授業料を区分することにより、学費についての合理的な説明が可能となります。

■ 導入にあたって、どのような準備が必要となりましたか。

開学前にアメリカの実例を視察し、4年分の学費を5年以上の在学年数で納入可能とした先行事例なども研究しました。

そして、この制度をすべての正規学生に適用（科目等履修生にも準用）し、どの科目についても単位あたりの授業料を同じにすることなどを決めました。また、募集の際に障壁となりうる入学金を比較的低額の10万円とし、それをもとに学費水準を定めました。

さらに、大学として収入の不安定性を少しでもなくすために、授業料Aを学費全体の約50%とし、早期卒業制度（3年で卒業）を採用しても減収となるのは4年めの授業料Aのみで済むように設定しました。

実施にあたっては、詳しいシラバスを用意して授業を選択しやすくすること、登録後、一定期間に登録の削除を認めること、そしてその後に授業料Bを納入することなどを決めました。これにより、学生の自己責任性が高まることをねらいとしました。なお、年2回の履修登録はすべてコンピュータを利用するため、膨大な作業量は軽減されています。

また、開学前の準備過程では、GPA（※）による評価基準の周知徹底を行いました。評価結果はセメスターごとの優秀学生表彰に反映されます。成績優秀者への奨励金は安藤百福名誉博士奨学金25万円、学長賞10万円などです。一方、授業評価は、セメスタ



【参考】成績評価

評価	得点率	可否
A+	90%以上	合格
A	80~89%	
B	70~79%	
C	60~69%	
F	59%以下	不合格

一ごとに学生にアンケートをとり、まとめた後に設問ごとの全科目の平均数値と各担当授業の結果を対照できるデータ（レーダーチャート）を各教員に返却し、授業の改善に役立ててもらうとともに、全体状況の分析により教育システムの改善案に生かしています。

※GPA (Grade Point Average) : 修得した単位を数値にしたもの。計算方式は以下の通り。

【(成績評価A+の単位数×4ポイント) + (Aの単位数×3ポイント) + (Bの単位数×2ポイント) + (Cの単位数×1ポイント) + (Fの単位数×0ポイント)】 ÷ 総修得単位数

■ 単位制授業料を採用したことで、どのような効果が表れていますか。

単位を落とすと、学生はその分を余計に登録する（その単位分の授業料を支払う）必要があります。ですから登録した単位は確実に修得しようという意識が働き、それが授業に対する姿勢に表れてきます。例えば、出席率が高い、授業への参画意識が高い、授業中の私語が少ない、などです。

結果として、前述の教育システムの特徴ともあいまって全体の約80%の学生がほぼ毎回（15週）授業に出席し（2002年度春 semester 授業アンケートから）、また多くの授業で学生によるプレゼンテーション、ディスカッションなどが積極的に行われています。

■ たくさん学びたい学生の授業料が高くなるのではありませんか。

より多くの授業を履修しようとするため、学費が高くなるため、積極的な学生の意欲を削





ぐのではないかという考え方もありますが、実際、より多く学ぶためにより多くの授業料がかかることは合理的だと言えます。124単位を超えて履修しようとする学生は、学費だけで判断して登録するのではないでしょう。

重要なことは、学費額に見合うだけの付加価値を学生につけることができたか、また学生がそれを意識できているかどうかということです。

APUと学費政策の今後

学費に関わって、今後APUはどのような政策をとっていくのでしょうか。

2003年4月に開設される大学院については、単位制授業料を採用しないことにしました。大学院の財政は、学部依存ではなく自立させるということが前提にありますが、その上で、大学院の研究・指導には教室以外のさまざまな形態があるため、単位制学費では学生に納得されない可能性があるかと判断しての決定です。

また、大学院開設に合わせて、学部教育のカリキュラムの構造を改革することにしました。現在の教育システムでは、登録単位数が制限数以内であっても、学生にかかる授業の負担は相当なものであるため、単位を落としたり、受けたくても授業を受けられないという学生がいます。同一期間内に同時に履修する科目数を減らすことにより、集中的な学習による学習効果を高めるために、2003年4月から講義科目を週2回行い、2ヵ月で完結させることになっています。

現在のシステムでは、年2回あるセメスターがそれぞれ4ヵ月の授業と2ヵ月のセッションからなっていますが、2003年度からは4ヵ月の授業を2ヵ月ずつに分けるものです。一つの科目が集中して2ヵ月で行われるため、それだけ集中して学べます。例えば現在のシステムで1セメスターに10の授業を登録していた場合、4ヶ月間に10の授業を学ばなければなりません。新しいシステムでは、2ヵ月間に5つの授業を履修すればよいので、学習効果を高めることができます。

登録単位数分布 (2002年度、年間)

1回生 : 16~18単位	} 90%
2回生 : 16~20単位	
3回生 : 16~20単位	
早期卒業生は平均24~30単位	

日本の大学の学費についてどう思いますか。

日本の大学の学費は決して安いとは言えません。特に私立大学の学費は、国立大学よりもかなり高くなっています。

学費額の差については、国立私立間の競争環境の平準化の中で論じる必要があります。そうでなければ、学費額に見合った付加価値を学生につけられたかどうかということ、国公立大学を含めて単純に比較することはできません。

あるアメリカのビジネススクールでは、年間300万円もの学費を徴収しているところもあると聞きますが、それに見合うだけの付加価値を学生が感じているからこそ、安定的に優秀な学生を確保できているのだと思われます。

私たちにとっても、現在徴収している学費額に見合った付加価値をつけられているかどうかを真剣に考えることは重要です。

これからの時代、大学に求められていることは何でしょうか。

上記の学費と付加価値の問題は、学生が大学を選ぶ際の重要な要素の一つとなりつつあります。学費の問題は、単に財政上というだけでなく、費用対効果の面から学生に評価される教育を提供できるかどうかという教育上の問題でもあります。

授業中に私語をする、携帯メールを打つなど、学生が勉強しないという悩みを抱えている大学も多くありますが、APUの実践例のように、教育の仕組みを工夫すれば学生は意欲的に学習するのです。

今、大学に求められているのは、学生が日常的に学習する仕組みを作り、体系的なカリキュラム、授業における教員の教育実践などによって、学生に確実に付加価値をつけていくことではないでしょうか。

単位制授業料の導入は、学生の学習を促す仕組み作り、教員の厳しい教育実践、学生のしっかりした学習、職員の適切な教育・学習支援とそのための方針の整備とあいまって、三者の間に緊張感をもたらしています。

学生は自らの能力を伸ばすために最大限の努力をするべきですし、一方、大学は学生の努力を啓発し、それに応える努力と条件の整備をすべきなのです。

単位制授業料は、費用対効果をわかりやすく端的に表しているため、大学の構成員にこうした意識を養う上でも重要な役割を果たしています。

「単位制授業料」は、学生の付加価値を高めて社会に送り出すという目的達成のための、一つの手段です。学生、教員、職員が一体となって大学づくりをしているAPUでは、これからその真価が問われようとしています。

早期卒業生の声

ACCELERATED PROGRAM

早期卒業プログラム（3年で卒業に必要な単位を取得し、卒業）に登録している学生のうち、就職を希望する学生は、第18号で紹介した竹本慎也さん（APM3回生、日本：株式会社博報堂に内定）を含め、3名全員が内定をいただきました。ここで2名の学生の声をご紹介します。



LEE, Eng Ngor

APM3回生、マレーシア
内定：株式会社東芝

VOICE

進学と就職の間で迷っていた私が、日本企業への就職活動を決意したのは、2001年11月に開催された「企業各位と大学・学生との懇談会」へ参加し、いろいろな企業の方とお話をさせていただいたことがきっかけでした。日本の就職活動といっても、最初はどのように活動していくのかまったくわからず、APUキャリア・オフィスで服装から、面接する時の対応、ビジネスマナー、敬語、履歴書作成のポイントにいたるまでさまざまなガイダンスやアドバイスを受けながら、就職活動への挑戦を始めました。

APUの早期卒業プログラムへ登録し、3年での卒業をめざす私にとって、就職活動と授業との両立は厳しいものでした。可能な限り授業は欠かさず出席し、就職活動では九州から東京、大阪、名古屋へ幾度も行きました。経費の負担、就職活動での

精神的な疲労は大きなものでしたが、APU教職員の方々、APUの友達から母国の友達まで多くの人たちがかけてくれた「がんばれ!」という言葉が、私を支えてくれました。

就職活動を始めてから内定をいただくまではかなりの時間がかかりましたが、日本のトップ電機メーカーからの内定通知をいただいた瞬間、それまでの苦労が吹き飛ばすような気持ちになりました。マレーシアの家族と長距離電話で話したときに、「おめでとう」の言葉と激励を受けながら、涙を流してしまいました。当然、立命館大学およびAPUの教職員、また周りの友達の応援や支援なしには、この成功の道を踏むことはできなかったと思います。自分一人だけではなく、この喜びはこれまで支えてくれた皆と一緒に共有すべきだと思います。困難なことたくさんありましたが、それらの経験を生かしながら、これから就職活動をしていくAPUの学生たちにとっては模範となるように、また一社会人として、これから社会に貢献ができるよう努力していきたいと思っています。



SETIAWAN, Rifky

APM3回生、インドネシア
内定：日本経営振興協会

VOICE

私は早期卒業プログラムに登録しており、3回生に入ってから、立命館大学との1年間の交換留学でびわこ・くさつキャンパス（BKC）で勉強しています。BKCにおける新しい環境での勉強・生活にまだ慣れていなかったにもかかわらず、たいへん運良く、新しい日本人の友達・知り合いができました。

彼らに就職活動の苦労話を聞きましたが、私は日本の企業で一日も早く貢献したいという気持ちがあったため、就職活動を行う決心をしました。日本での就職活動を行うのに、時間と交通費が多くかかるということはもっとも大きな問題だと思いま

す。また、就職フェアに行った際に、自分が就職したい職業がなかなか見つからないことと、外国人を採用する日本企業はまだ少ないこともあって、日本で就職することが難しく感じました。

しかし、立命館アジア太平洋大学やアドバイザー・コミッティの方々のご協力をはじめ、運と自分が就職したいと希望していた企業との縁があって、日本経営振興協会という会社から内定をいただくことができました。そのときは、夢を見るような気がしました。

現在、私は2003年3月にぜひとも卒業したいとがんばっています。また、日本の社会人としての生活を一日も早く送りたいと考えています。

Report

2002年世界学生サミット開催

WORLD STUDENTS' SUMMIT

10月29日から31日まで、立命館アジア太平洋大学（APU）において「2002年世界学生サミット」が開催されました。海外25カ国・地域58大学、国内21大学、立命館大学および立命館アジア太平洋大学から、代表学生が総勢で339名参加しました。

このサミットは、平和大学（国連）のモーリス・ストロング総長、マーティン・リー学長、長田豊臣立命館総長・立命館大学学長、坂本和一立命館副総長・立命館アジア太平洋大学学長の4者によって開催が呼びかけられ、3大学の主催によって実現したものです。

APUでは学生実行委員会（委員長：猿渡崇人さんAPM3回生）が本年6月に結成され、準備を進めてきました。「『人間の安全保障』と『持続可能な発展』をいかに確立するか：学生・青年の役割」を主テーマに10の分科会テーマを設定し、参加者には自分がもっとも関心のある分野の分科会に登録してもらいました。そして、それぞれの分科会ごとにサミット開催直前までWeb上でのBBS討議を行ってきました。

最終的には、各分科会でまとめられた10のWGS（ワークショップ・ジェネラル・ステートメント）をもとにサミット全体の成果としての声明が作成され、国連へ送付することになりました。参加学生は、各自がIAP（インディビジュアル・アクション・プラン）を作成し、実行していくことになっています。

■日時・会場

2002年10月29日（火）～31日（木）
立命館アジア太平洋大学（APU）キャンパス（大分県別府市）

■実施主体

開催呼びかけ人

モーリス・ストロング平和大学（国連）総長
マーティン・リー平和大学（国連）学長
長田豊臣立命館総長（立命館大学学長）
坂本和一立命館副総長（立命館アジア太平洋大学学長）

主催

平和大学（国連） 立命館大学 立命館アジア太平洋大学

共催

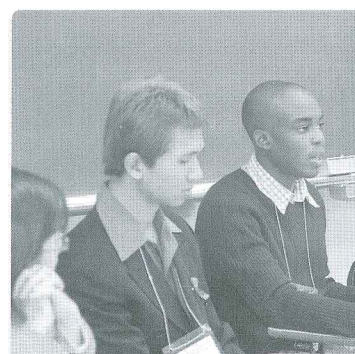
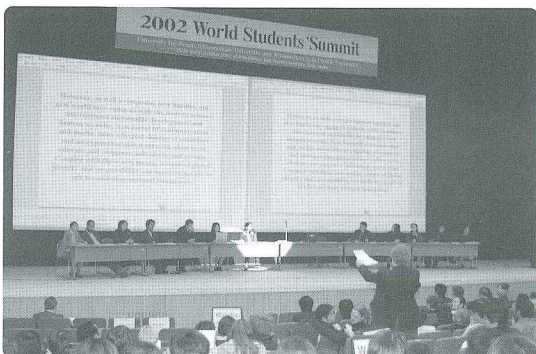
大分県 大分県国際交流センター

特別協力

NHK日本放送協会 読売新聞社

後援

外務省	朝日新聞社	TOSテレビ大分
文部科学省	西日本新聞社	OAB大分朝日放送
日本経済団体連合会	大分合同新聞社	エフエム大分
九州・山口経済連合会	共同通信社	
別府市	OBS大分放送	





■テーマ

主テーマ

『人間の安全保障』と『持続可能な発展』をいかに確立するか
：学生・青年の役割

分科会テーマ

- ① メディアのグローバリゼーションにおける国家と企業の関係
- ② 地球的規模の国際協力
- ③ 21世紀型の教育システム
- ④ 人間の権利
- ⑤ 社会と保健
- ⑥ 科学技術の譲渡による協力
- ⑦ 国際社会と平和
- ⑧ 先住民問題
- ⑨ 貧困の撲滅
- ⑩ 自然と人間の共生

■プログラム

10月29日

歓迎レセプション

歓迎あいさつ：川本八郎立命館理事長

予備会議

分科会

10月30日

分科会

開会総会

開会あいさつ：猿渡崇人APU学生実行委員長

メッセージ：コフィ・アナン国連事務総長

緒方貞子国連人間の安全保障理事会共同議長

平松守彦大分県知事

主催者あいさつ：長田豊臣立命館総長

基調講演：高原慶一郎日本経団連評議員会副議長/
ユニ・チャーム株式会社代表取締役会長

モーリス・ストロング平和大学総長

分科会

フレンドシップパーク（県市民参加の歓迎夜祭）

歓迎あいさつ：井上信幸別府市長

10月31日

分科会

閉会総会（分科会報告・声明など）

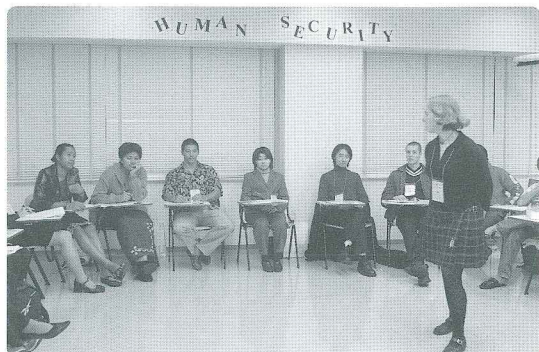
講評：ネイ・トゥーン平和大学教授

閉会あいさつ：坂本和一APU学長

猿渡崇人APU学生実行委員長

フェアウェルパーティ

2002 World Students' Summit



The "Welcome to APU" event

“ようこそ、APUへ” 開催

APUでは2002年11月に、アドバイザー・コミッティ企業をはじめとして、日本を代表する企業・団体から81社105名の皆様（人事担当部局の方々）にAPUキャンパスにお越しいただき“ようこそ、APUへ”を開催しました。

この企画は、2001年11月に開催した「立命館アジア太平洋大学企業各位と大学・学生との懇談会」での成功を受けて、APUキャンパスへ実際にご来学いただき、国際色豊かな環境で学ぶ学生の姿や成長を直接ご覧いただくとともに、より深い理解とより具体的な学生へのアドバイスやご意見を賜るものです。

特に1日目のゼミ見学では、グローバルなテーマをめぐって、多国籍・多文化の学生たちが日・英両言語で議論する姿

は、多くの企業の皆様に高い評価をいただきました。2日目の、懇談会では、ご出席いただいた全ての企業・団体の方々と多くの学生が懇談させていただき3週間の全日程を通じて合計477名、延べ1442名のAPU学生が参加しました。

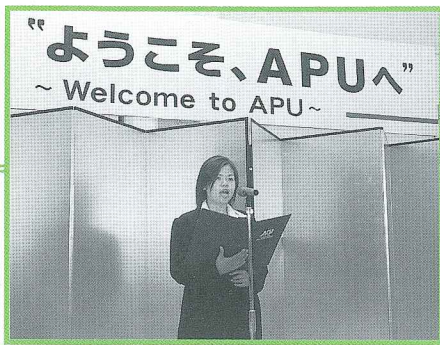
参加学生からは、「卒業後の進路を考える良いきっかけとなった」「企業の方が懇切丁寧にお話してくださり、企業とはなにかということが良く理解できた」などの声が多く寄せられています。

各企業・団体の皆様には、ご多忙にもかかわらず、APUキャンパスにお越しいただいたことに厚くお礼申し上げます。

◎ご出席企業・団体一覧 (81社105名)

(50音順)

11月13・14日		11月27・28日	
旭化成株式会社	株式会社東和エンジニアリング	協和発酵工業株式会社	戸田建設株式会社
伊藤忠商事株式会社	株式会社西日本銀行	株式会社クボタ	凸版印刷株式会社
大分瓦斯株式会社	株式会社西日本新聞社	グラクソ・スミスクライン株式会社	日本電気株式会社
大分交通株式会社	日鉱金属株式会社	国際協力事業団	日本貿易振興会
鐘淵化学工業株式会社	日産自動車株式会社	三洋電機株式会社	日本貿易振興会大分貿易情報センター
九州経済産業局	日商岩井九州株式会社	株式会社滋賀銀行	パークワーホテル株式会社パークハイアット熊本
株式会社九電工	ヒロセ電機株式会社	シャープ株式会社	富士ゼロックス株式会社
株式会社熊谷組	株式会社福岡CSK	ソニー株式会社	株式会社豊和銀行
株式会社さとうベネック	株式会社福岡ドーム	東急建設株式会社	株式会社三井住友銀行
株式会社ジェイティービー	株式会社福岡シティ銀行	トヨタ自動車株式会社	三菱化学株式会社
住友大阪セメント株式会社	富士通株式会社	日商岩井九州株式会社	森永製菓株式会社
株式会社大和証券グループ本社	ローム株式会社	日本アイ・ピー・エム株式会社	ヤマト運輸株式会社
中国電力株式会社		日本ヒューレット・パカード株式会社	ユニ・チャーム株式会社
東京海上火災保険株式会社	11月20・21日	株式会社日立製作所	
東京電力株式会社	アサヒビール株式会社	株式会社福岡銀行	全日本空輸株式会社
株式会社東芝	石原産業株式会社	松下電器産業株式会社	ダイキン工業株式会社
東洋紡績株式会社	大阪ガス株式会社	三菱マテリアル株式会社	大成建設株式会社
	オリックス株式会社	株式会社安川電機	大日本印刷株式会社
			東陶機器株式会社



◎プログラム

第1日目

14:30 全体会
 主催者挨拶 立命館アジア太平洋大学 学長 坂本和一
 ご報告 —APU教育の現状と到達点—
 立命館アジア太平洋大学
 副学長(教学・学生担当) 慈道裕治

15:30 キャンパス視察

15:45 ゼミ参観

17:30 APU学生・教職員との交流会 (立食形式)

開会挨拶 学校法人立命館理事長 川本八郎
 乾杯 立命館アジア太平洋大学
 副学長(対外関係担当) 西田宗旦
 懇談

御礼 学生代表
 閉会挨拶 立命館アジア太平洋大学
 副学長(総務・財務担当) 伊藤 昭

19:00 終了

第2日目

10:00 APU懇談会 (学生との個別懇談)

開会挨拶 立命館アジア太平洋大学 学長 坂本和一
 閉会挨拶 立命館アジア太平洋大学
 副学長(総務・財務担当) 伊藤 昭

13:00 昼食

14:15 終了

Report

APU大学院設置認可報告

大学院の設置が文部科学省に認可されました！

APU GRADUATE SCHOOL

立命館アジア太平洋大学大学院の設置が文部科学省に認可され、アジア太平洋研究科と経営管理研究科の2つの研究科を2003年4月に開設することになりました。

APUは、大学院の設置により、教育研究の一層の高度化を図り、本学の理念である「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を高度なレベルで推進し、アジア太平洋地域における経済社会の発展ならびに産業育成に貢献するとともに、さまざまなフィールドにおいて活躍できる人材を輩出することにより、国際交流拠点および教育研究拠点として、国際社会および地域社会への貢献を実現していきます。

《開設する研究科》

研究科	課程	専攻および研究分野	学位	
アジア太平洋研究科	博士前期課程	アジア太平洋学専攻	修士 (アジア太平洋学)	
		国際協力政策専攻	国際行政	修士 (国際協力政策)
			環境管理	
	観光管理			
博士後期課程	アジア太平洋学専攻	博士 (アジア太平洋学)		
経営管理研究科	修士課程	経営管理専攻 (MBAプログラム)	ファイナンス	修士 (経営管理)
			国際ビジネスとマーケティング	
			イノベーションと技術経営	

立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数 (2002年10月1日付)

国・地域	学生数	国・地域	学生数	国・地域	学生数
シリア	1	バブアニューギニア	5		
韓国	296	サモア	4		
中国	224	ニュージーランド	3		
台湾	113	パラオ	1		
ベトナム	91	トンガ	1		
インドネシア	78	リトアニア	12		
タイ	47	ハンガリー	7		
インド	42	ブルガリア	6		
スリランカ	37	イギリス	6		
マレーシア	26	ロシア連邦	4		
フィリピン	18	エストニア	3		
バングラデシュ	14	フィンランド	3		
ラオス	14	ルーマニア	3		
ネパール	14	ポーランド	2		
パキスタン	13	ウクライナ	2		
ミャンマー	12	クロアチア	1		
シンガポール	12	チェコ	1		
モンゴル	10	ドイツ	1		
カンボディア	7	オランダ	1		
イラン	3	スロバキア	1		
ヨルダン	2	国際学生合計	1261		
ウズベキスタン	2	国内学生合計	1545		
グルジア	1	総計	2806		
シリア	1				
トルコ	1				
ガーナ	14				
ケニア	14				
ナイジェリア	10				
エチオピア	6				
ウガンダ	6				
マラウイ	3				
カメルーン	2				
ジブチ	2				
マリ	2				
スーダン	2				
ジンバブエ	2				
コートジボワール	1				
コモロ	1				
マダガスカル	1				
モロッコ	1				
ザンビア	1				
アメリカ合衆国	27				
カナダ	10				
エクアドル	2				
ボリビア	1				
オーストラリア	8				

女子陸上競技部が全国大会に出場しました



全国大会への出場が決定しました。

全国大会は25大学が出場して11月24日に大阪で行われました。

12時に長居陸上競技場をスタートし、沿道では立命館アジア太平洋大学と立命館大学の在学生やOB、教職員が多数応援に駆けつけてくれました。

タイムは、2時間20分16秒で2001年の20位を上回る17位でゴールしました。

9月23日に海の中道海浜公園（福岡市）において第20回全日本大学女子駅伝対抗選手権大会予選会が行われました。APUの女子陸上競技部は健闘し、全

皆さんのご支援のおかげで、昨年より好結果を残すことができました。また、この経験を活かして、さらに上位をめざすべく努力していきます。



17カ国・地域の駐日大使が来学されました



11月26日、オーストリア共和国、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、ボツワナ共和国、クロアチア共和国、エクアドル共和国、エチオピア、フィジー諸島共和国、アイルランド、ケニア共和国、ルクセンブルグ大公国、マラウイ共和国、モロッコ王国、モザンビーク共和国、パキスタン・イスラム共和国、ウクライナ、ザンビア共和国、欧州委員会代表部の17カ国・地域の大使が来学されました。

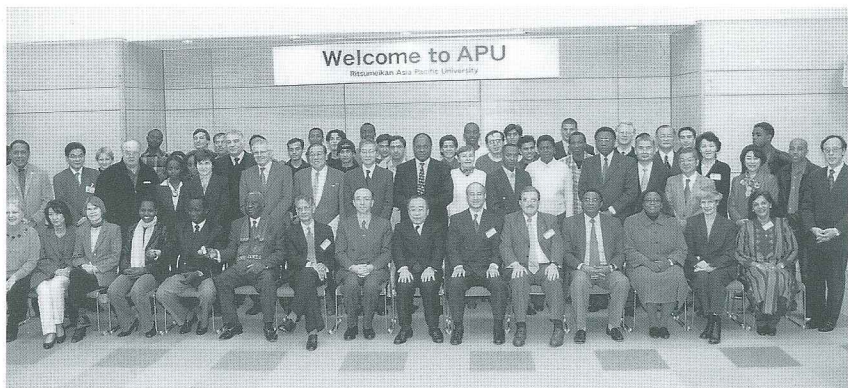
訪問団一行は、コンベンションホールで、荒川国際部長の司会により懇談を行いました。坂本学長があいさつ、慈道副学長が大学の概要説明を、団長のモロッコ王国のモハメッド・タンジ大使からはAPUについての感想をいただきました。

記念品交換、記念撮影の後、パーティ

会場のカフェテリアに移動し、各大使は、それぞれの出身国学生たちと一緒にランチを取りながら懇談されました。各大使は自国の学生たちにAPUでの学習や、日本での生活を詳しく尋ねられていました。

最後に西田副学長から大使の方々に、APUへのさらなる支援をお願いするあいさつをしてパーティは終了しました。

大使一行は学生たちの見送りを受けて次の目的地へと向われました。





APU 立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1 TEL.0977-78-1114 <http://www.apu.ac.jp/>